

課題番号	7-2-7	分野名	特用林産	予算区分	国庫
研究課題名	自然活用型特用林産物の生産技術の開発2 (自然栽培きのこの多品目安定生産技術に関する研究)【畑ワサビ】				
担当者名	大橋 洋二		研究期間	平成19~22年度	

**目的**

林間地を利用した畑ワサビ栽培は、収穫時期が限られるものの安定した収入が期待でき、長期にわたり多品目を生産するための品目として有用と考えられる。そこで林間地を利用した畑ワサビ栽培において安定栽培技術を確立するため、1年間の成長と虫害状況の実態を調査した。

**方法**

栽培は広葉樹林下で行い、ワサビ苗間隔の影響を調べるため定植間隔を25・30cmの2種類で行った。ワサビはアブラナ科に属し、葉が虫害にさらされやすいことから、防虫対策効果試験を行うこととし、防虫ネットの有効性、ネット内の専有面積効果、害虫の捕殺効果を検証する。詳細な試験区分は表-1のとおり。各区とも平成20年11月21日に苗を10本ずつ定植した。

表-1 畑ワサビ 試験区分

試験区分名	定植間隔	管理方法
A - ネット80	30 cm ×	トンネルフレーム + 防虫ネット (H=80 cm)
A - 対象区		無し
A - 対象区		無し
A - ネット50	30 cm	トンネルフレーム + 防虫ネット (H=50 cm)
B - ネット80	25 cm ×	トンネルフレーム + 防虫ネット (H=80 cm)
B - 対象区		無し
B - ネット50		トンネルフレーム + 防虫ネット (H=50 cm)
B - 捕殺区	25 cm	害虫の直接捕殺
B - ネット80		トンネルフレーム + 防虫ネット (H=80 cm)

**結果概要**

平成21年5月19日に1回目の収穫を行った。収穫結果は表-2のとおりで、A区においてはネット区で、B区では対象区でやや高い収量が得られた。今回の収穫では定植後半年程度であることから明確な差が出にくかったが、高温・直射日光を嫌うワサビはネットによる被陰が効果的で、夏期において明確な成長の差がみられた(写真-1)。定植間隔については、1年目の収穫ではA区の30cm間隔で高収量が得られていた。これはワサビの葉は10~20cmと大型の葉になり、1苗当たりの成長の占有スペースが多いためと考えられる。

表-2 畑ワサビ 収穫一覧

試験区分名	収穫枚数	収穫重量	1苗当たり
A - ネット80	54	523	5枚 52g
A - 対象区	25	192	3枚 19g
A - 対象区	22	198	2枚 20g
A - ネット50	37	322	4枚 32g
B - ネット80	21	247	2枚 25g
B - 対象区	37	306	4枚 31g
B - ネット50	15	161	2枚 16g
B - 捕殺区	15	64	2枚 6g
B - ネット80	20	126	2枚 13g

畑ワサビでは病害虫による被害も多く、今回の調査では5月中旬から7月中旬にかけて、カブラハバチやモンシロチョウによる虫害が、8月から9月にかけて軟腐病や墨入病の被害が多くなっていた。図-1はA区における虫害を受けた葉数割合を示したグラフだが、ネット区では虫害の割合は低く、原因は不明ながら特にネット50の区で防虫効果が高かった。これはB区においても同様の傾向が見られた。なお、B区捕殺区における捕殺の効果は無く、病害についてはどの区においても違いは見られなかった。

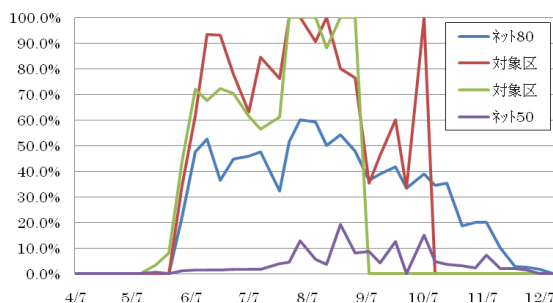


図-1 虫による葉の被害割合 (A区)



写真-1 ネットによる成長の差(左:ネット内, 右:外)